

平成29年第2回嬉野市議会定例会会議録

招 集 年 月 日	平成29年6月2日					
招 集 場 所	嬉野市議会議場					
開 閉 会 日 時 及 び 宣 告	開議	平成29年6月13日 午前9時30分			議 長 田 口 好 秋	
	散会	平成29年6月13日 午前11時45分			議 長 田 口 好 秋	
応（不応）招 議員及び出席 並びに欠席議員	議席 番号	氏 名	出欠	議席 番号	氏 名	出欠
	1番	生 田 健 児	出	10番	山 口 政 人	出
	2番	宮 崎 良 平	欠	11番	芦 塚 典 子	出
	3番	川 内 聖 二	出	12番	大 島 恒 典	出
	4番	増 田 朝 子	出	13番	梶 原 睦 也	出
	5番	森 田 明 彦	出	14番	田 中 政 司	出
	6番	辻 浩 一	出	15番	織 田 菊 男	欠
	7番	山 口 忠 孝	出	16番	西 村 信 夫	出
	8番	田 中 平 一 郎	出	17番	山 口 要	出
	9番	山 下 芳 郎	出	18番	田 口 好 秋	出

地方自治法 第121条の規定 により説明の ため議会に出席 した者の職氏名	市長	谷口 太一郎	子育て支援課長	大久保 敏郎
	副市長	中島 庸二	市民協働推進課長	筒井 八重美
	教育長	杉崎 士郎	文化・スポーツ振興課長	小池 和彦
	総務企画部長	辻 明弘	福祉課長	染川 健志
	市民福祉部長	中野 哲也	農林課長	
	産業建設部長	宮崎 康郎	うれしの温泉観光課長	井上 元昭
	教育部長 教育総務課長兼務	大島 洋二郎	うれしの茶振興課長	宮田 誠吾
	会計管理者 会計課長兼務	池田 秋弘	建設・新幹線課長	早瀬 宏範
	総務課長 選挙管理委員会事務局長兼務	永江 松吾	環境下水道課長	
	財政課長	三根 竹久	水道課長	
	企画政策課長	池田 幸一	学校教育課長	徳永 丞
	税務収納課長	小國 純治	監査委員事務局長	
	市民課長	小森 啓一郎	農業委員会事務局長	
健康づくり課長				
本会議に職務 のため出席した 者の職氏名	議会事務局長	田中 秀則		

## 平成29年第2回嬉野市議会定例会議事日程

平成29年6月13日（火）

本会議第4日目

午前9時30分 開議

### 日程第1 一般質問

順次	通告者	質問の事項
1	生田 健児	1. 人口減少問題について 2. コンピュータウイルス被害防止対策について
2	山口 要	1. 企画関連の諸問題について 2. 産業関連の諸問題について 3. まちづくり問題について 4. 職員の人事問題について 5. 福祉関連の諸問題について 6. 教育問題について

---

午前9時30分 開議

#### ○議長（田口好秋君）

皆さんおはようございます。

本日は、織田菊男議員、宮崎良平議員が欠席であります。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程につきましては、お手元に配付のとおりであります。

日程第1. 一般質問を行います。

まず初めに、昨日の増田朝子議員の質問に対する答弁の修正の申し出があっておりますので、これを許可いたします。総務課長。

#### ○総務課長（永江松吾君）

おはようございます。昨日の増田議員の質問の答弁を訂正させていただきます。

平成27年と28年の中途退職者の御質問を受けましたけれども、そのとき私は27年度がなしで、28年度1名と答弁させていただきましたけれども、ちょっと勘違いしておりまして、定年前の中途退職者は27年度が3名、28年度が2名でございましたので、訂正をさせていただきます。申しわけございません。

以上です。

#### ○議長（田口好秋君）

それでは、通告順に発言を許します。

1 番生田健児議員の発言を許します。生田健児議員。

**○1 番（生田健児君）**

皆様おはようございます。議席番号1番、生田健児でございます。議長のお許しが出ましたので、通告書に従い質問をさせていただきます。

まず、今回は大きく2点について質問したいと思います。

まず第1点は、人口減少問題についてであります。

2点目は、コンピューターウイルス被害防止対策についてであります。

最初に、人口減少問題についてであります。

嬉野市の人口がついに2万7,000人を割り込み、4月30日現在で2万6,813人となりました。このように人口減少が続く嬉野市のこれからについて伺いたいと思います。

また、人口減対策としての結婚支援対策についても伺いたいと思います。

1番、人口が減少し続けている現状についての市長の考えを伺う。

残りの質問につきましては、質問席より行いたいと思います。

**○議長（田口好秋君）**

ただいまの質問に対して答弁を求めます。市長。

**○市長（谷口太一郎君）**

皆様おはようございます。生田健児議員のお尋ねについてお答え申し上げます。

生田議員のお尋ねにつきましては、人口減少問題についてという中で、人口が減少し続けている現状について市長の考えを伺うということでございます。

嬉野市の現状に関する取り組みといたしましては、平成27年10月に嬉野市人口ビジョンに基づき、嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定いたしましたところでございます。本市の人口減少の特徴として、若い女性の転出が多い傾向にありますので、雇用の創出や子育ての環境整備などの施策に積極的に取り組んでまいりたいと考えておるところでございます。

以上で生田健児議員のお尋ねについてお答えとさせていただきます。

**○議長（田口好秋君）**

生田議員。

**○1 番（生田健児君）**

市長としましては、これから先、日本全体の問題であります、少子・高齢化が進んでいくわけですが、当市におきましての現状もそうなんですけれども、人口減少をし続ける中においての緩やかな市全体の、言葉は悪いかもしれませんが、衰退していく状況を受け入れていく考えなのか、それともそうではないのか、その辺について考えを聞かせていただきたいと思います。

**○議長（田口好秋君）**

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

人口減少問題につきましては、私どもだけではなくて、国全体がそのような減少問題に直面しているわけですので、それぞれの情報等を的確に取り入れながら、ぜひ私どもとしては、この人口減少をできるだけ食い止めるような政策を打っていかねばならないということで、いろんな形で議会にもお願いしているところでございますので、これからも引き続きそういう努力はぜひ継続していきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

ぜひ人口減対策、さまざまな面で対処していただきたいと思いますけれども、この人口減問題につきましては、市民の方、特に子育て世代の方の将来に対しての不安という面もかなり大きいかと思います。特に、子どもたちの将来ですね、進学して、そして、その先の就職、そしてまた住み続けるという面で、やはり人口がどんどん減っていく、嬉野市において子どもを育てていいのか、また、その前段階の子どもを産む前段階で、嬉野で産んで育てていいのかという不安の声を聞くようになりました。特に、吉田中学校、私の卒業した中学校でありますけれども、自分のときは2クラス、おおよそ70人いたわけなんですけれども、現状、吉田、ないしは嬉野に残っている人数を考えると、現状1学年20人以下の学生数を考えると、将来的に吉田、ないしは嬉野に残る数を考えた場合、かなり少ないといえますか、子どもたちが本当に残る意味があるのか、また、その先の小学校の段階ですね、中学校にやることにおいて、余りにも学生数が少な過ぎるために、勉強やスポーツの面で競争がもうほとんど生まれにくいんじゃないかという不安の声も聞きます。そういった面で、市の先行きに対しての不安、またイメージ的なもののマイナスイメージがあると思いますが、市長はぜひそういった面を払拭していただきたいと思いますけれども、市長、その辺について考えを伺いたいと思います。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

いろんな受け取り方はあると思いますけれども、最近、非常に嬉野自体がいわゆる追い風、活性化してきたという話は聞いておるわけでございまして、その点では市民の皆さんの御努力のおかげだというふうに考えております。また、吉田地区等につきましても、もちろんこ

の人口減少が進んでおりますけれども、いわゆる子どもたちの、いわゆる吉田で学ぶとか吉田で育つということについてハンデにならないように、私どもとしては一生懸命努力をしているところでございまして、その点では今、吉田地区の子どもさん方は本当に懸命に努力をさせていただいて、それなりのしっかりした学力といいますか、また生活態度とか、そういうものについては非常に評価されるような形になっておられますので、その点では、生徒数はもちろん少なくはなってきておりますけれども、吉田で学校が存在しているということ自体については、私としては非常に評価をしているところでございます。

以上でございます。

**○議長（田口好秋君）**

生田議員。

**○1番（生田健児君）**

ぜひそういった将来への不安といった面も払拭していただきたいと思っておりますけれども、特に、先ほどから言っておりますけれども、イメージの悪化といいますか、先行きに対しての不安につきましては、やはり日本全体で見ますと東京への一極集中、また九州で考えますと、どんどん福岡に若者が吸い上げられているという現状があると思っております。また、近隣の市町につきましても、武雄の大型店が現在どんどんできていく現状を見ますと、ぱっと見の印象といいますか、そういったものはどうしてもやはり武雄のほうが勢いあるなという印象を受けるわけでありまして、そういったイメージ的な面ですね、観光面につきましては、イメージ的な広告といいますか、CMを打たれておりますけれども、実際住む市民の方々に将来につきましても安心していただけるような、そういったCMじゃないですけども、安心してもらえるような広報活動なり、そういったものをぜひしていただきたいと思っておりますけれども、そういった取り組みについてどうお考えでしょうか。

**○議長（田口好秋君）**

市長。

**○市長（谷口太一郎君）**

お答え申し上げます。

やはり嬉野で住み続けたいという方を、アンケート等をとりますと、調査会社の方が驚かれるように、8割以上の方が引き続き嬉野に住み続けたいというお答えをさせていただいているわけでございますので、そういう点では非常に愛着を持っていただいているというふうに考えておるところでございまして、この前の調査でも同じような形で数字が出てきておりますので、非常に市民の方は嬉野に対する愛着はあられるというふうに考えております。その愛着に対してハンデにならないように私どもとしては文教福祉ですね、それから保健衛生とか、いわゆる生活の基本となるものについては、ほかの自治体以上のことをしていかなければならないということで努力をしているところでございますので、そういう点ではぜひいろ

んな情報等も発信をしていきたいと思っておりますので、市民の方の御理解をお願いしたいというふうに思っているところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

続きまして、2番目の質問に移りたいと思っておりますけれども、こちらは効果的な人口減対策が打てていないように思いますが、そのことについての現状とこれからについて伺いたいと思っております。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

人口減につきましては、毎月、市報でもずっと人口の動きを紹介しているわけでございますけど、私も毎月チェックをするわけですが、大体嬉野の場合は年間の前半がプラス傾向となりまして、それから、中間ごろからが減少傾向となるわけでございまして、そういう点では、ことしも4月は前月比プラスになっておりまして、地区別には差はありますけれども、今月のプラスが出ているのは五町田地区と吉田地区が人口がふえているというふうな形だったんじゃないかなと思います。だから、前半がふえて後半が減っているということでございますので、どうしても御高齢の方がおられますので、寒気とか、冬場になりますと御逝去される方が非常に多くなられるわけでございまして、その点でどうしても人口が減っていくという点はあるんじゃないかなというふうに思っております。そういう点もございまして、私どもとしては、やはり健康福祉とか御高齢者のサービスとか、そういうものをできるだけさせていただいているということでございます。

また、若い人の嬉野市内への就職ということも努力をしなくちゃいかんということで、高校の先生方とも今お話をしながら、それぞれの高校の特性を生かすように私どもとしてはぜひ努力をしていきたいということで、今いろんな関係機関と連携をしておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

お年寄りが亡くなられることにおける人口減、また、若い方が就職や進学等で転出されることによる人口減もあるわけですが、昨年度におきましては、いわゆる転出ですね、

仕事や進学等々の理由で転出された方というのは、減少した人数の何%になるのでしょうか。

○議長（田口好秋君）

暫時休憩します。

午前 9 時45分 休憩

午前 9 時45分 再開

○議長（田口好秋君）

再開します。

市民福祉部長。

○市民福祉部長（中野哲也君）

お答えいたします。

平成28年度、転出が880名、転入が761名ということで、119名の転出超過となっておりますけれども、その中身の詳細については現在資料を持ち合わせておりませんので、後ほどわかる範囲でお答えしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

わかりました。市長の先ほどの答弁におきましても、やはり効果的な人口減対策が打てていないというのが現状であるというふうにするのですけれども、やはりこの人口減対策ですね、また、移住者をふやすさまざまな施策におきましては、どこかの自治体が画期的なことをやられるとしても、同じようなことを他の自治体がまた始めてしまって、それが平均化といたしますか、それが標準的な補助になってしまっているという面も多々あるように思いますが、特に嬉野におきまして、嬉野独自に、自分自身も当然嬉野はすばらしいまちだと思えますし、住みよいまちだと思えますが、独自の魅力といたしますか、よさを他市にはないような対策をぜひ打っていただきたいと思えますけれども、そういった当市独自の対策についての考えは、これからはどういったことを考えられるのでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

全国的な人口減少というのは既に相当以前に予測をされておったわけでございまして、私どもといたしましては、旧嬉野のほうは九州でも珍しく区画整理事業を戦前から取り組んでまちづくりをしてまいったところございまして、現在販売しております第七、第八、それ以前の第六につきましても、ほかの地区にはないまちづくりをして、いわゆる住環境の整備ということをしてきたわけでございまして、現在、建物その他の物件等の動きがあるのも、



やはり区画整理地区が非常に目立っているわけでごさいます、そういう点では大きな流れとしては時代に合った流れをしてきたんじゃないかなというふうに考えておるところでございます。

ただ、先ほども申し上げましたように、じゃ、職種別にどうなのかというと、やはりサービス産業が中心でございましたので、若い方がなかなか適職として選ばれるようなバラエティーに富んだ職業がなかったということは課題であったんじゃないかなというふうに思っておりますので、そういう点では、今交通の面も非常によくなりましたので、通勤という形も入れながら、若い人たちが嬉野に定住していただくように、いろんな政策をとっていきたいというふうに思っております。そういう中でも、やはりこの持ち家制度とか、そういうものをずっと推進しておりますので、少しずつ定着率が上がっていくんじゃないかなというふうに期待をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

ありがとうございます。

毎回、議員とかたろう会でも市民の方より質問や御意見をいただきます。企業誘致につきましては、今後どういうお考えをお持ちか、お聞かせください。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

企業誘致につきましては、おかげさまで、女性の方々の職場をつくりたいということで1社誘致をさせていただきまして、既に職員数もふやしていただいておりますし、次は大幅にふやしていこうということで計画をいただいておりますので、その点ではうまく行っているんじゃないかなというふうに思っております。

また、男性、女性用の職場としては、今回、久間工業団地の工場の方が大規模拡張ということで、相当社員の方も募集をしたいということで、既に募集を開始しておられるわけでごさいます、その点では、今非常に人口が移動している中で、募集に少し大変な面があられるというのは聞いておりますけど、しかしながら、せっかく職員数をふやしていこうということで頑張っておられますので、私どもとしてはぜひ御協力をしていきたいというふうに思っております、職場としては相当確保ができていっているというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

ぜひこれからも企業誘致、頑張っていていただきたいと思います。

また、人口減対策につきましても、ぜひ嬉野独自の魅力的な対策を考えていてほしいと思います。

続きまして、3番の結婚支援対策の現状とこれからの課題についてでございます。

まず、結婚支援対策ですね、こちらにつきましては、もちろん結婚を望まれる方が幸せになっていただくのが一番であるのは言うまでもありませんが、市として事業を行っていく以上は、市の将来にぜひつなげていていただきたいと思います。また、高校を卒業されて18歳で進学、就職等で県外へ出られる方も多いと思います。高校を卒業して都会に出たいというのは当然のそういった世代の欲求じゃないかと思えますし、また、人口問題に対して考えていく上では、ぜひ結婚して嬉野へ戻ってこられる方をぜひがっちりつかまえていていただきたいという思いもあります。

このたびの結婚支援対策の現状とこれからの課題についてであります。昨年の結婚支援対策につきまして、市としてはどういった取り組みをされていたのか、簡単にお聞かせください。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

結婚支援対策の現状と課題についてということでお尋ねでございます。

嬉野市独自では、平成23年度から出会いの場の提供、また、お見合いやコミュニケーション講座、結婚相談員の相談業務や、各コミュニティの結婚支援サポーターの方にも結婚支援に取り組んでいただいているところでございます。また、新たに今年度からは県とタイアップいたしまして、さが出会いサポートセンターを月1回開設していただくようになったところでございますので、また趣旨に賛同していただく民間の事業所においても推進をしていただいておりますので、非常に期待をしているところでございます。現在の成婚者は、延べ37人となっております。

課題は、登録者の増加を図ること及び成婚に向けての講座等への参加者増が不可欠だと考えているところでございまして、結婚支援がマンネリ化にならないように、毎年新たな活動を取り入れながら推進したいと考えております。このような地道な活動が先ほど言いましたように成果として上がってきておりますので、徐々に実を結んでいけばなというふうに期待をしているところでございます。

以上でお答えとさせていただきます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

この事業がきっかけで結婚まで行かれた方々は、現在嬉野に住んでいらっしゃる方はどれくらいの割合になるのでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市民協働推進課長。

○市民協働推進課長（筒井八重美君）

お答えいたします。

現在、嬉野市のほうに住んでいらっしゃる方は、今手元に持っていませんので、後で確認をして答えさせていただきたいと思います。

以上です。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

現在資料がないので後だって資料をいただくということなんですけれども、大体の印象ではどれくらいなんですか。半数以上は住まれているということによろしいのでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市民協働推進課長。

○市民協働推進課長（筒井八重美君）

お答えいたします。

印象でいいということですのでお答えいたしますけれども、一応、市の直接支援による方が8組いらっしゃって、間接支援による分で男性が9人、女性が12人といらっしゃいますので、男性の方はほぼ地元の方で成婚されていらっしゃる方が多く、あと直接支援による方もですので、大体半数以上はいらっしゃるんじゃないかなとは思っておりますけれども。

以上です。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

さまざまなイベントや企画をされているようでありますが、参加者の方はそういったイベントや講座について、どういった感想をお持ちでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市民協働推進課長。

○市民協働推進課長（筒井八重美君）

参加者の方は、まず、イベントに参加してよかったとかいう方ももちろんいらっしゃるんですけども、それ以前に、まず、コミュニケーションの講座とかをうちのほうはしております、人とコミュニケーションをとる場合のそういう講座とかで大変勉強になったというような感想をたくさんいただいております。自分が知らなかったものを勉強することができたということで、今後、婚姻に結びつく分だけではなくて、生活していく上でも参考になったということで大変好評をいただいております。

以上です。

**○議長（田口好秋君）**

生田議員。

**○1番（生田健児君）**

先ほどありました県のさが出会いサポートセンター、嬉野センターが開設されて、月1ですか、相談に乗っているということでもありますけれども、こちらの利用者は現在どれくらいいらっしゃるのでしょうか。

**○議長（田口好秋君）**

市民協働推進課長。

**○市民協働推進課長（筒井八重美君）**

さが出会いサポートセンターの事業に関しては、29年5月から開設しております、今のところ月1回、嬉野のほうで開設していただいております。前もっての電話連絡等によっての登録になりますので、5月の時点では2件来ていただいているというような状況です。

今のところの周知関係が、登録者の方に御連絡をしております、6月になってからホームページに掲載をしたりとかしておりますので、嬉野のほうであっているというのを御存じの方はたくさんまだいらっしゃいませんので、今からどんどんふえていくのではないかなと思っております。

ただ、県のサポートセンターの登録に関しては、嬉野市のほうでの登録だけではなくて、これまで佐賀のほうでとかもあっておりましたので、そちらのほうには嬉野市民の方が実際登録をされていらっしゃるしまして、その方たちは成婚に至られているというような事実もございます。

以上です。

**○議長（田口好秋君）**

生田議員。

**○1番（生田健児君）**

こちらのさが出会いサポートセンター、嬉野センターでありますけれども、以前、さが出会いサポートセンターのほうに委員会として視察させていただいたんですけれども、そのときはタブレットに男性、女性の情報とございますか、さまざまな事柄が載っていて、そこから

検索をかけていくといったらあれなんですけれども、このサポートセンター、嬉野センターにつきましては、佐賀のセンターと内容的にはほとんど一緒と考えてよろしいのでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市民協働推進課長。

○市民協働推進課長（筒井八重美君）

お答えいたします。

内容的には、今おっしゃったようにタブレット等でまず登録をしてというような形になっておりますので、同じような形で登録をしていくというふうになっております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

こういった結婚支援につきまして、ぜひこれからもどんどん頑張っていっていただきたいとは思いますが、こちらはやはり、現状ですと、さが出会いサポートセンター、嬉野センター以外の分ですと、市内の方同士の出会いといいますか、そういったことになると思うんですけれども、やはり市内同士というのは、そこに抵抗を持たれる方もかなりいらっしゃるんじゃないかと思っておりますけれども、できれば県外、例えば、福岡や長崎の市町で同じような出会いサポート事業をされているところと交流といいますか、そちらと合同でやっていくというような、よそと共同でやっていくような考えはお持ちではないでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市民協働推進課長。

○市民協働推進課長（筒井八重美君）

お答えいたします。

今御質問のあっている分は、市内に住んでいらっしゃる方同士が会われるということかなと思ったんですけれども、男の方については基本、市内在住者の方で近隣の方は大丈夫ということで登録をさせていただいておりますけれども、女性の方については市内限定というふうにはしておりませんので、市外の方ももちろん登録をされていらっしゃる方はおられます。それと、イベント等に関しても基本そのような体制を整えておりますので、女性の方については市外の方が参加をされていらっしゃるというような現状です。

もう一点の、イベントをされている県外の方とのタイアップをということなんですけれども、そこら辺について、まず、県外も含めてなんですけれども、県内にも実際こういう事業をされていらっしゃる場所もありますので、今後検討していくことはあるのかなとは思っておりますが、あくまでも今後の検討課題ということで考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

ぜひ県内、県外かかわらず、よそのサポート事業の方とも合同でやっていって、出会いの幅といたしますか、そういったものを広げていただけたらなと思います。

4番目に移らせていただきますけれども、結婚を機に県外、特に九州外から嬉野に移住された方にとって、言葉や文化など戸惑うことも多いように思いますけれども、このような方を市としてサポートできないかということでもあります。特に、最初住み始めですね、どうしても、ここに書いてありますように、言葉、文化など戸惑うことも非常に多いと思います。特に、嬉野の方言といたしますか、割と独特といたしますか、よその方が聞かれて難しいんじゃないかというふうな印象を受けております。また、生活におきましてもさまざまなわからないことがあると思いますけれども、そういった方をサポートできないかということでもあります。特にこれからは海外から移住や結婚で来られる方もふえるでしょうし、そういった方も含めてサポートしていただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

今御発言のように、できるだけいろんな地域から嬉野に住んでいただくという気持ちを持って来ていただくというのは非常に大切なことだと考えているところでございます。これについて、サポートということもございますけれども、実際どのようなサポートができるのか、例えば、言語の問題とか習慣の問題とかいろいろあると思います。そういうことで、まずは地域に住まわれるわけでございますので、ぜひ地域のコミュニティの方々と連携をとっていただくような、そういうことで御案内をしたいと思っておりますし、地域のならわしとか、活動とか、そういうふうなところから入っていただいて、言葉も理解していただくというふうな形になるのが一番いいのではないかなと思っておりますので、まずはコミュニティ活動とか、そういうふうなことで御理解いただければなと思っております。

また、各区の行政嘱託員さんあたりといつもお話をするわけでございますけれども、できるだけ班に加入して地域との連携をとってほしいと言われるのが、それぞれの行政嘱託員の皆さん方も希望しておられるわけでございますので、そこらについては御理解いただくように、私どもとしても努力をしていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

当然そういった形が一番理想といたしますか、あつてほしい形だとは思いますが、特に嬉野に最近といたしますか、どんどん建っておりますアパートに住まれている方ですね、こういった方は基本的にはそういった班とか地区のコミュニティにはほとんど参加されていないというのが現状であると思っておりますけれども、そういった方もこれから嬉野市にふえていかれるのはもちろんであります。そういった方も当然サポートしていくべきであろうし、また、外から移住される方というのは、最初からいきなり家を建てる人は少数だと思うので、とりあえずアパートからスタートという形が多いと思います。そういったアパートに住まれている若い世代ですね、そういった方を中心にこういったサポートをぜひ、どういう形になるかというのは難しいところではありますが、やっていっていただきたいと思っております。

どういった形がいいかというのは自分もちょっと考えているところなんですけれども、先ほど言われたようなコミュニティ等々に入られていないといたしますか、そういった方についてもぜひサポートしていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

議員御発言のように、いろんな地域から来ていただいて嬉野に住んでいただくということにつきましては非常にいいことだというふうに考えておりますので、いろんなサポートができれば、ぜひ進めてまいりたいなと思っておりますのでございます。

子どもさんたちがおられる場合につきましては、例えば、保育園等の関係とか、それから学校との関係あたりで地域との連携も結構されるわけでございますけど、子どもさんたちがおられないような場合にはなかなか難しい点もございますので、先ほど言いましたように、地区にまず入っていただくと。それからまた、コミュニティの活動にチャレンジ的にも参加をしていただくとか、そういうことについてはぜひPRを関係者と協議をしてまいりたいと思っておりますのでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

ぜひよそから移住された方がスムーズに嬉野になじんでいただけるような体制をつくっていただきたいと思っております。

特に、人口減少問題についてでありますけれども、とにかく先行き不安というようなイメージ、嬉野市に勢いが無いんじゃないかというようなイメージを持たれている方も多いよう

に感じておりますので、ぜひそういったネガティブなイメージを払拭されるような活動を続けていっていただきたいと思います。

2番目の質問に移らせていただきます。

コンピューターウイルス被害防止対策についてであります。

世界的にランサムウェアによる被害が多発したことは報道等でも盛んにありました。このようなコンピューターウイルス問題は、電子化が進む現代において、ますます深刻になるであろう。この問題において、市の現状とこれからについて伺いたいと思います。

1番、嬉野市役所において、今回のランサムウェア問題、また過去にコンピューターウイルスに感染したことはあるのか。また、防止対策は十分になされているのかということについて質問したいと思います。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

嬉野市役所におきましては、今回のランサムウェアを含めまして、これまでコンピューターウイルスに感染したことはございません。ランサムウェアに関する防止対策としては、昨年11月にサイバーテロ対策の専門家を招いて全職員を対象にした職員研修会を実施しております。また、ウイルスメールや迷惑メールを事前にはじくために、メールのフィルタリングをかけているほか、ウイルス対策ソフトによりUSBを差し込んだ際にはウイルス感染をチェックしております。

以上でお答えとさせていただきます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

ぜひこういった問題については対策をこれからもしていっていただきたいと思いますが、こちらの2番に移りますけれども、個人情報等のデータが入りましたUSBメモリ等を紛失されるなどの報道が時折されることがございますけれども、嬉野市において個人情報を受け渡しにおいてどういう手段で行われているのか、これは個人情報の保護をどうやって行っているのかという全体的なことについてもお聞かせ願えればと思います。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

嬉野市の場合は、嬉野市情報セキュリティポリシーを定めておりまして、その中で外部へ



の持ち出しは禁止をしておるところでございます。

以上でお答えとさせていただきます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

これまで嬉野市におきまして、個人情報流出、または紛失等は何件発生しておりますか。

○議長（田口好秋君）

総務課長。

○総務課長（永江松吾君）

お答えいたします。

発生はあっておりません。

以上です。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

個人情報の流出、紛失は今までないということで答弁を受けました。ぜひこちらのコンピューターウイルス被害防止につきましては、市役所内はもちろんのこと、市民の方にもどんどん周知を徹底していただきたい問題であると思いますし、また、そういった広報活動もやっていただきたいと思います。

今回、大きく2点について質問させていただきましたけれども、ぜひ人口減少問題につきましては、まずは嬉野に住まわれている方に対してのイメージアップと申しますか、もちろん観光地としてのイメージアップは盛んにされておりますので、ぜひこの住まわれている方が安心していただけるように、また移住してこられる方にとっても安心して住める嬉野ということ周知徹底してほしいと思います。

以上で私の一般質問を終わります。

○議長（田口好秋君）

これで生田健児議員の一般質問を終わります。

引き続き、一般質問の議事を続けます。

17番山口要議員の発言を許します。山口要議員。

○17番（山口 要君）

議席番号17番山口要です。ただいま議長の許可をいただきましたので、平成29年6月議会最後の一般質問を行いたいと思います。

さて、昨今の国政の動きを見ておりますと、最大野党である民進党の脆弱さも手伝って、圧倒的な数の力を誇る自民党の強権さばかりが目立つところであります。そして、それも一

定の人物、あるいは側近への極端な権力集中が進んでいるような印象さえ感じます。このような状態で仮に進むとするならば、将来的には独裁国家への門戸を開く危険をはらんでいるように思われるのは私だけでしょうか。

この状況の一例を言いますと、森友学園や加計学園問題において、官邸の意向、あるいはそんたくといった形で通常のパターンを飛び越えて、ルール違反ばかりがまかり通っていくという、まさにおごりの広がりがあると言っても過言ではないかと思えます。

加えて残念なことは、このような状況にあっても人事権や公認権での報復を恐れ、物言えは唇寒しといった雰囲気の中で、自民党内からも誰一人異論を唱える者が出てこないという嘆かわしい限りでもあります。以前の自民党にありました、時として執行部批判を行い、また、右から左までの自由闊達な論戦がなされた、まさに自由で民主的な政党であった面影が今やみじんもない状況となっております。

「政事は豆腐の箱のごとし。箱がゆがめば豆腐ゆがむべし。」との二宮尊徳の言葉もありますが、そのようにならないためにも、今こそ真の健全な政治が求められているのではないのでしょうか。

このことを勘案しながら嬉野市政に目を転じてみますと、現在の本市における施策執行等を含めた諸問題の中で国政と同様な状況になっていないか、恐らくないとは思いますが、改めて一般職から幹部職、幹部職から執行職へと具申ができる環境づくりの醸成に向けて努力をしていただきたいと思えますし、そしてまた、職員の方に申し述べたいのは、筋の通らない案件につきましては、はっきりとノーと言うおのれの矜持を持って、毅然とした対応をしていかれんことを望んでおきたいと思えます。

前置きが長くなりましたが、本題の質問に移ります。

私の信条であります、政治については70歳定年ということが持論であります、そのことからいたしますと、今回が103回目の一般質問、あと残り2回という一般質問になってまいりました。

そういう中で、今回についても大きい問題で15問、細かくすると35問と、毎回申し上げますように、まさにてんこ盛りの質問となっております。90分という限られた時間の中で精いっぱい施策提案を行ってまいりたいと思えますが、執行部の方におかれましても、簡潔でわかりやすい答弁を求めたいと思えますし、質問できなかつた分については、今後の施策の参考にさせていただきたいと思えます。

それでは、アトランダムな形になりますけれども、とりあえず文化の香り高いまちづくりについて、ここで訂正をしておきますけれども、「芸術」を削除していただきたいと思えます。文化に対する市長としての所見を問いたいと思えます。

あとの質問については、質問席より行いたいと思えます。

○議長（田口好秋君）

ただいまの質問に対して答弁を求めます。市長。

○市長（谷口太一郎君）

山口要議員のお尋ねについてお答えを申し上げます。

お尋ねにつきましては、文化の香り高いまちづくりについてという中で、文化、芸術に対する私の所見をということでございます。

嬉野市の文化、芸術は、市内各地区特有の自然環境や歴史の中で育まれたものでございます。本市は、恵まれた自然、資源に恵まれ、多くの文化遺産があります。先人たちが私たちに伝え残してくれた大切な資産として、後世へ保存、継承していく必要があると考えているところでございます。

また、市民みずからがその文化遺産を体感し、再認識することで、人々の心が寄り添う幸せな社会が形成できると考えているところでございまして、その意味で豊かな文化資源を活用した嬉野市づくりにつなげることができればと考えているところでございます。

以上で答弁とさせていただきます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

今、市長のほうから文化のまちづくりということでの答えがありましたけれども、辞書を引いてみますと、文化というのは、人間がその精神的な働きによって生み出した思想、宗教、科学、芸術などの成果の総体ということで記されております。

そういうことを前提にして市長に再度お尋ねをいたしますけれども、本市の行政における文化をつかさどる所管というのはどこにありますか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

常日ごろ、嬉野市の歴史、伝統をたつとびながら仕事をしていくということで考えておるところでございますので、総合的にはもちろん事業課等もありますけれども、全体の課が担当していると考えておりますけれども、やはり柱となるのは、文化・スポーツ振興課をつくらせていただいたということでございます。

もう一つは、特に私が期待しているものは、教育委員会、学校教育課等に期待をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

今、市長は、文化についてつかさどるところは、基本的には文化・スポーツ振興課ということでの答弁をいただきました。とするならば、やはり文化・スポーツ課においては、ある程度の文化というものに対する認識を持っておかなければならないというふうに思います。

ここで私は、あえて振り返すことになりませうけれども、実は非常に残念だったのは、私が提案した一つの施策というものがなくなったからということではありません。それが納得いく理由であるならば私自身も当然引き下がるというふうに思っておりましたけれども、昨年度まで開催されておりました川柳大会、これが今年度から削除されているんですよね。そのときに、委員会での説明、それはあつたかまつりでも同じようなことをやっているというふうな説明で片づけられたんですよ。

改めて市長にお尋ねします。

川柳と俳句の違いは何ですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

専門的に学んだことはございませんけれども、俳句につきましては、いわゆる自然、風物、それから、それぞれの人間社会を季節感を込めて詠んでいるのが俳句ではないかなというふうに思っておりますけど、川柳は、社会情勢とかそういうものを踏まえて、もっと自由に詠んでいただいているのが川柳じゃないかなというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

全く川柳と俳句とは違うんですよね。それがいとも簡単に、あつたかまつりであっているから川柳大会を中止しましたと、そういうことで片づけられるんですか。市長は、この川柳大会がなくなったのを御存じでしたか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

承知はいたしております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

承知をしておられたんですか。承知をしておって、その理由というのものはっきりわかった上で承知をされたんですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

私が承知しておりますのは、中止に至った理由として、金額は小さかったんですけれども、予算的な配分の関係だということでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

予算的なものというのは、本当に微々たる金額でしょう。あれくらいの金額だったら、ほかのところでも十分削られるはずなんですよ。

それは置いといて、文化・スポーツ、文化をつかさどる課において、私どもへの説明があったかまつりでも同じものがあるという、まさに啞然とするような答えをしゃあしゃあとと言われる。それがまさに文化課の考えであろうかということに私はびっくりしたんですよ。

あったかまつりは、俳句なんですね。当然季語があって、五七五。川柳は、17文字の自由句なんです。となれば、私はあったかまつりであっているから川柳大会を廃止したなんてことは言えないと思うんですよ。いかがですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

委員会の議論の中でどうあったのかというのはよく存じておりませんが、私としては、今回につきましては予算の関係だというふうに考えておりますので、以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

予算の関係って、ほかの予算の分でも、そういうたった微々たる金額では削られる部分がいっぱいほかにもあるでしょう。それをただ単に予算の関係とかいう形で、私はこういうこ

とを削られるとなれば、怒り心頭に発するというのはまさにこのことですよ。

私は、3月議会のときにも、委員会のときにきっちりそのことを申し上げました。俳句と川柳の違いは何かと。そしたら、すみませんで終わりましたよ。そういう課が嬉野の文化をつかさどっているということに対しては、先ほども申し上げましたけれども、嘆かわしい限りですよ。

市長は今、とうとうと嬉野の文化について述べられましたけれども、そういうことでさえ、果たして担当課に伝わっているのかどうか。それ以上は言いませんけれども、私は正直なところ、あれだけ委員会で言ってから、6月議会あたりで復活予算が出てくるかなというふうな期待をしておりました。しかしながら、透かしで見ても出てこないし、9月議会あたりはひょっとしたら透かしでも見えるかもしれないと期待をしますけれども、とりあえずそういうことだけは申し述べておきたいと思います。

改めて各課の課長さんたちも、偉そうなことを言いますけれども、文化というものについて、もう一度勉強し、再認識していただきたいということを要望して、次に移ります。

次に、移住問題です。

資料を見ますと、平成28年度は転入が761人、転出880人、平成29年4月末において、転入107人、83人。これは、平成26、27年度の状況はどうですか。

○議長（田口好秋君）

市民課長。

○市民課長（小森啓一郎君）

お答えします。

平成26年度においては、転入が788人、平成27年度においては831人、転出については、人員としまして924人、平成27年度については1,011人となっております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

これがまさに人口そのもの、動態をあらわしている。完全に転出超過ですよ。そういう状況ですよ。

企画政策課長にお尋ねしますけれども、この状況についてどのようにお考えですか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

総合戦略を策定した際に人口ビジョンなるものをつくっておりますけれども、嬉野の人口、

これは全国的な傾向と同じですけれども、その中でも特に若い女性の減少というのが顕著であるというのは事実でございます。

人口問題研究所の中では、人口消滅可能性都市というのにも上げられておりますので、危機感を持っている状況でございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

その危機感というのは、どれくらいの危機感ですか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

このまま何も手を打たないのであれば、嬉野のまちがそのまま衰退していくんじゃないかという危機感でございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

そういうことですよ。本当に手をこまねいているだけではどうしようもない。次から次へと新たな政策を打ち出していかないと大変な状況になってくる現在の状況です。それについては、他の都市においても、とにかくそういう状況の中でいろんな手を打ってきている。

そこで、一つお尋ねなんですけれども、孫ターン、これについては御存じでしたか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

新聞報道で目にしておりました。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

新聞で目にして、その後、どう対応されましたか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えいたします。

これは移住のきっかけとして、今回、孫ターンというのが注目をされつつあるというところで、九州内においては、新聞では大分県豊後高田市が書かれておりましたけれども、残念ながら、ここにも問い合わせ等はしておりません。今、具体的に動いている状況ではございません。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

本当にお忙しいと思いますけれども、ちょっとヒントを得そうなものがあるとするならば、とりあえず問い合わせなりともしてくださいよ。それがあなたの役目でしょう。

この中で今あっているのは、例えば、兵庫県が孫ターン推進事業という形でやっておりますし、鳥取県日野町においては、あゆ奨学金ということで出しております。そして、大分県豊後高田市においては、孫ターン奨励金を出しています。これについては御存じかと思えますけれども、実は山口県の周防大島町、ここは本当に転入が多いところなんですけれども、その転入してきた116人のうち、約1割近くが孫ターンであったという結果も出ております。

そこら辺のところをもう一度調べてもらって、一応嬉野でもできないかということを探っていたきたいということを要望して、次に移ります。

次に、お試し移住ということです。

お試し移住については、これは今、県内において唐津市、伊万里市——鹿島市が今回から始めるかと思えますけれども、あと基山町、有田町が行っております。そして、佐賀県においては、今年度から体験ツアーというものも企画をされておりますけれども、これについては御存じですか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

県内の自治体、今、数えられた自治体の取り組みは存じ上げておりました。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）



これも同じことですが、存じ上げていて、そして、何らかの検討というか、資料取り寄せとか、問い合わせとかはされましたか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

唐津市のお試し移住につきまして、ことしの1月12日に佐賀新聞に掲載をされておりましたので、すぐに唐津市に問い合わせをいたしております。その中で、どういう状況なのか、そういう情報を得ているところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

どういう状況でしたか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えいたします。

唐津市さんのほうでは、NPOがサポート体制をとられているというところで、このNPOさんが不動産業者と賃貸契約を結んでいると。きっかけとして、もともと先ほど言いましたNPOが移住サポートの活動をしていたのが、市の取り組みと合致したことで今回お試し移住につながったというところで、実績として、今のところ1件ですというところでした。

課題といたしましてはどのようなものがあるかを尋ねたところ、本来、唐津市は若い世代をターゲットにしたかったんですけれども、どうしても若い世代は仕事もあって、なかなかお試し移住、休みをとってそういうものに結びつかなかったというところで、今のところ、リタイアされた方がメインとなっているという情報を得ております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

今、1組と答えられたのはどういう数字ですかね。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

お試し移住をされた方ですね、この来られた方が1件というところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

私の間違いかもしれませんが、私の資料では7組を受け入れておられますけれども。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

私が1月に確認したところでは、実績として何件なんですかというところでは、1件をお答えされております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

1件は、完全にこちらに移住された方なんですね。お試し移住は7件だというふうには私に思っております。その1件、完全に移住された方は、加部島かどこかに来られた方、その1組がそういうことなんです。

これについても、動きにするのはなかなか難しいかと思えますけれども、ぜひ今回の提案を契機として、いろいろと検討を重ねていただきたいというふうに思いますし、もう一つは、鹿児島市がクリエイターに限ってお試し移住というものを実施しております。

本市においても、ソフト産業の企業誘致というものに努力をしていきたいというふうなこともおっしゃっておられます。そういうことから考えますと、これはまさに当てはまるんじゃないかなというふうに思います。

ここにおいては、長期滞在、短期滞在、2つに分けて今実施をしております。ぜひ鹿児島市に問い合わせをしていただいて、山口要から一般質問があったけれどもということをつけ加えていただいて、お尋ねをしていただければというふうに思います。

もう一つ、この通告書には上げておりませんが、関連したお尋ねですが、県が県内就職者に対して、Uターン就職される方に対して何らかの一つの施策を行っているということについては御存じですか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

具体的には存じ上げておりません。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

実は、ことしの10月から12月に希望者を募って、人材流出に歯どめをかけるわけなんですけれども、Uターン就職などで県内企業に就職する大学新卒者らに対して県が10万円から30万円の奨励金を支給する制度、来年の3月から始まります。最大500人ぐらいを見込んでおります。再度そこら辺を調べていただいて、本市としても手を挙げるべく努力をしていただきたいということで要望しておきたいと思います。

次に行きます。

動画発信ですけれども、課長、再制作は考えないという考えは依然として変わりませんか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

考えは変わっておりません。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

未来永劫にわたって、その考えですか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

未来永劫というわけではございません。いずれか機会を見て、制作が必要であれば、そのときに制作をしていきたいと考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

移住ナビの動画ランキングは何位でしたかね。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

ランキング順位は存じておりません。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

前回、131位ということでおっしゃいましたよね。737ある中で131位、これがいい順位か悪い順位かということは判断に任せるということで申しましたけれども、今、移住ナビの全国ランキングがありますよね。それは全部ごらんになったことがありますか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。（「10位ぐらいまでは」と呼ぶ者あり）

いや、上位の幾つかは見ましたけれども、全部は見ておりません。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

この中で、今、10位以内に入っているうちで、2つがダンスを使った動画なんです。愛知県の南知多町、ここは今、動画ランキング第1位。ここだけはアクセスがすごくて、そういうふうな状況ですので、再度、もう一度、そこら辺のかたくなな考えを少しやわらかくしていただいて、ちょっと取り組んでみようかなぐらいのところのお答えをいただきましたかったんですけども、あなたの性格のせいでしょうかね。

まあいいですけども、それでもう一つ、今、佐賀市が佐賀弁ラジオ体操というのをしているのを御存じですか。その動画を見られたことはありますか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えいたします。

拝見しております。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

感想は。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

方言を使って、非常に親しみやすいPR動画じゃなかったかと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

それについて取り組んでみようというお考えは。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

嬉野市のPR動画としては、先ほど来申しましたように、今の動画でいきたいと。違う形になれば、考えていきたいとは思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

市長はどうですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

佐賀市のも拝見しておりますけれども、今、私どもとしては、うちの動画を配信しているところがございますので、ぜひ定着して、もう少し回数がふえてくればいいんじゃないかなと思っておりますので、その点ではもっとPRをしていきたいと思えます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

それでは、課長は、今のPR動画については未来永劫に近い形で変えないけれども、他の

動画については今後検討する余地があるということで理解をしいいんですか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

未来永劫というのがどこまでというのはお約束をしませんけれども、先ほど来申しましたように、今のPR動画を続けていきたいと。別に、例えば、ふるさと納税でのPR動画等も他の自治体ではございます。これは職員が手づくりで、動画に自分たちが出て、出しております。そういうのをちょっと考えていきたいとは考えております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

じゃ、次へ行きます。

3番目の県の鍋島直正のラップ、これはごらんになったことがありますか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

拝見しております。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

市長は。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

直正公のラップについてはまだ見ておりません。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ぜひ、きょうでも一遍ごらんになってみてください。非常によくできておりますし、楽しいです。

ラップでいいますと、実は秋田県湯沢市の副市長、これがラップで湯沢市を大いに売り込んでおりまして、九州で鹿児島県長島町の井上さん、今は高知県かどこかに行かれましたけれども、この方とのラップでのやりとりをされている。

今、若者に結構ラップというものがはやっております。副市長、ラップについては御存じですか。

○議長（田口好秋君）

副市長。

○副市長（中島庸二君）

言葉は聞いたことがありますけど、具体的にはよくわかりません。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

じゃ、ラップ、県のそれを見れば大体こういうものだというのがわかりますので、一遍のぞいてみてください。

今、本当に若者にラップは浸透してきております。そういう意味で、若者に嬉野を知ってもらおうという意味でも、ラップの取り入れ方というものを今後検討していいんじゃないかなというふうな気がいたしますので、ぜひよろしく願いしておきたいと思います。

じゃ、次に行きます。

維新ですけれども、資料でいきますと、150年について、お茶をベースにした形でのリレーシンポジウムが来年の2月中に開催予定であるというふうなこと、これは県との共同事業でありますけれども、本市については、今、検討中ですということでありますけれども、どの程度の検討中か、あと半年ぐらいしかありませんので、そこら辺のところについてはどうなっておりますか。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（井上元昭君）

今、県との150年祭のやりとりについては、うれしの温泉観光課のほうで行っているところでございます。

実際、この間、県の補正等も上がっておるような状況でして、今、県と協議をしている状況でございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

いや、私が言うのは、今おっしゃったのは、作業についてのリレーシンポジウムの件でしょう。私が資料を求めたときに、市単独での取り組みについては現在検討中ですというふうな答えが来ていたので、市独自の取り組みについてはどの程度の検討中ですかということをお尋ねしたんです。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（井上元昭君）

お答えをいたします。

嬉野市としましては、今、150年のどういった人物がいたかということ再度検証しているところでして、そういった中でお茶なり、温泉なり、陶器なり、その当時活躍して、その後、どう嬉野に寄与していったのかというふうなことを、今、調査をかけているところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

せっかくのいい機会でありますので、先ほどの文化じゃありませんけれども、ぜひここで温泉、お茶、焼き物等に関する歴史というものをもう一遍ひもといていただいて、今後の参考にさせていただければというふうに思いますけれども、市長、いかがですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

この維新150年企画につきましては、県の会議等でも発言をしておるわけでございますけれども、私どもとしては、もちろん私どもの産業、歴史もございまして、地理的な関係もございまして、ぜひ長崎との連携を取り上げてほしいということを県とも話をしているところでございます。昔、同じ肥前の国だったわけでございますし、明治維新の薩長土肥は佐賀県だけではないわけでございますので、ぜひ長崎県との連携をしてほしいということでお話をし、知事も長崎県知事にもお話をされたようでございますので、何か連携を嬉野でできればというふうに期待しているところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）



ぜひそういう形でしていただきたい。特に直正に関して言えば、長崎の砲台等々との関係もありますし、そしてまた、大浦慶のお茶のこともありますし、そこら辺のところを含めて、今、市長が申されたようなことを施策というもので生かしていただきたいというふうに思いますし、観光課長、いかがですか。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（井上元昭君）

お答えをいたします。

議員御発言のように、嬉野温泉、お茶、陶器を含めたところで今後検証していきながら、嬉野のPRを行っていきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

それを行うには、観光課だけではなくして、やっぱり歴史というものが加わってきますので、全庁的な、ある意味ではプロジェクトチームなりをつくってやっていく必要があるのではないかなという気がいたしますけれども、市長、いかがですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

今、県のほうで企画をしておるわけでございますが、場所とかなんかは決まったようでございますけど、まだ具体的な中身については決まっておりませんので、そこは連携をとりながら、私どもとしてもしっかりと取り組める組織をつくっていきたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ぜひ、そういう形で御努力いただきたいということを要望しておきます。

次に行きます。

クラウドファンディング、この問題については、随分と以前、提案をいたしましたけれども、その後の経緯はどうなっていたのか、お尋ねをいたします。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

クラウドファンディングについては、以前の議会でも質問がございましたので、県の企画部門に問い合わせをして、内容等について聞いたところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

じゃ、課長が今聞いた、今まで何らの動きもあっていなかったということですかね。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

実際には、お聞きはしたものの、クラウドファンディングの取り組みはできていないという状況でございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

クラウドファンディング、これはまさに資金調達の一方法、クラウドが群衆で、ファンディングは資金調達ですよ。その造語ということでもありますけれども、課長は新聞を見て御存じかと思えますけれども、今回、みやき町がこれの取り組みを始めております。

これは後でも言いますが、東京渋谷の幻庵、そこもクラウドファンディングを行っております。

これは、民間では今、結構はやってきておりますけれども、行政においても、ある意味では一つのふるさと納税と同様な、今後、展開の仕方によってはそういう形で取り組もうという動きも広がってきているわけなんです。

そのクラウドファンディングのやり方としては、市独自でやるのか、それともみやき町みたいにクラウドS a g a をお願いをして、そこに投資をして、そして、市内のそういうクラウドファンディングを利用したい方のフォローをするという方法、それぞれあるわけなんですけれども、みやき町のやり方を見てどうお感じになりましたか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

クラウドファンディングそのものが、もともと行政がやるのは非常に厳しい面もございますので、行政の役割としては、そういう事業に対して支援——お墨つきですね、一番大きいところは、その事業に対してのお墨つきだと思います。そういうサポートと一緒にやってできるいい仕組みだなと思って新聞を眺めておりました。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

じゃ、眺めて、それで終わりだったんですか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

今のところはちょっと手をつけられておりませんが、今後、みやき町のやり方、ほかの自治体もございますので、どういうやり方で進めていけばいいのかを検討していきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

今、資金調達の方法として、かなりこのクラウドファンディングが広がってきております。それとあわせて、行政がその支援、フォローという形でする動きも広がってきている状況なんです。

再度、もう一度勉強していただいて、本市の施策の中に取り入れていただけたらというふうに、早急に私はそのような動きをしてほしいというふうに思いますけれども、市長、いかがですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答えを申し上げます。

みやき町のことは、直接、町長からも聞いておまして、状況としては承知しておりますけれども、先ほど担当課長も申し上げましたように、受け皿といいますか、実行部隊をどこに持っていくかということで課題があるかなというふうに思っております、実行部隊をち

やんとつくることができ、そのようなことでやれば成果として上がってくるんじゃないかなと思っておりますけど、私が今のところ勉強しました範囲では、もちろん動かすのはいいんですけど、じゃ、精算するときはどうするのかというのがなかなかまだ私も理解できないところであるわけでございまして、これが成功しているときはいいわけですけど、当然失敗するときもあるわけでございまして、その失敗するときの精算の方法を誰がどうしていくのかというのが、なかなか厳しい制度だなというふうに思っておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

クラウドファンディングの場合には、今、失敗した場合どうのこうのと言いますけれども、やり方として、要するにリターンの問題として寄附型とか投資型、そして、もう一つは購入型というのがあるんですよ。購入型についてはそこら辺の問題が発生しましたけれども、例えば、寄附型とか投資型、そこら辺については、仮に悪い形になってもさほど問題がないというふうに思うわけなんです。

もう一つは、みやき町、もう御存じかと思えますけれども、ここは12万円、クラウドS a g aに出資をするだけで終わっているわけなんですね。そこでお墨つきを得る。先ほど課長も申しましたけれども、市内の各N P Oを含めて応援をするという形になっているわけなんです。

ですから、そこら辺のところはもう一度検討していただいて、ぜひ取り組みに向けていただきたいというふうに要望をしておきたいと思えます。

次に行きます。

ふるさと納税は、これは一般質問であってございましたけれども、そのときに実施時期は業者と相談をしていく、通知であろうと従わざるを得ない、次年度以降に対応したいというふうな答えがあってございました。

ここで、実は山形県の吉村知事、この方が今、反旗を翻しておられますよね。要するにこの要請には強制力はないというふうなことを含めて、このことについて、市長はどうお考えですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答えを申し上げます。

山形県知事さんの発言も承知しておりますけれども、地方の立場としては、ああいうふうなことで発言をしていただいてよかったなというふうに思っておりますけど、私どもが心配しておりますのは、全体のふるさと納税の仕組み自体が否定されるということがないように、

これは国全体の課題として、もともとはそういうことではなくて、一極集中というのですか、それを各地方にも分けていこうと言うと語弊がありますが、地方にも広げていこうということからスタートした制度でございますし、制度としては非常にいいと思っておりますので、山形県の知事さんがおっしゃったように、これは地方にとっては存続していただくべき制度だというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

一部の都市の過熱さがこんな状況を生んだと思いますけれども、反面、実はこれに対して、ふるさと納税で余りにも都会からのお金が逃げていくということでの都市部におけるいろいろな意見があった中で、このような動きも広がってきたというふうに私は理解をしているわけなんですね。

今、市長が言われたように、当然、このふるさと納税というのは、地方自治体にとっては非常にいい制度だったわけです。ですから、そういう意味では今後続けていただきたいというふうに思います。

そこで、実施時期、先ほど申しましたように業者と相談していきたいどうのこうのということでは言われましたけれども、3割という基準、そのところなんですね。これは返礼割合なのか、総経費率なのか、そこら辺の基準というのはどこに置かれますか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

国から示された分は返礼品の割合を3割ということで示されておりますけれども、ただ、後日来た通知では、この3割が妥当な数値じゃないよということも文書として来ておりますので、必ずしも3割ではないと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

妥当な数字という意味をもう一度御説明いただけますか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

文書の中身、これをちょっと読み上げたいと思いますけれども、返礼割合の妥当な水準を3割とする趣旨ではありませんという内容で来ております。妥当な水準を3割とする趣旨ではないというところでの文書でございますので、妥当という言葉、それをどう捉えるのか、そこだと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

課長は、妥当なラインというものの水準をどう捉えますか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

ここの3割というのが、今のところ、国が全国自治体に求められているラインでございますけれども、私自身としては、今、私どもがやっているふるさと納税、何ら国からつつかれるようなところはないとは思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ですよね。結局、今、嬉野の場合は5割近い返礼ということになってはいますが、7割、8割が多過ぎたから、これの弊害というもので問題が出てきて、こういう結果になってきていると私は認識をしているわけなんです。

地元の産品を大いに売り込んで、そこでまた、そのリターンで納税してくれるということであれば、非常にいい制度だというふうに思うんですよ。だから、そういう意味では、私は嬉野市が損しているわけでもないし、ある意味では益になっているわけですので、そして、それがいろんな形で利用されているわけですから、もしそういうふうな妥当なライン、水準ということであれば、私は現状のままで取り組んでいってもいいんじゃないかなという気がいたしますけれども、市長、いかがですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

いろんな受け取り方はございますけれども、私どもとしては、地域の事業者の方と一緒にやってきたわけでございますので、地域の事業者の方々が今まで御協力いただいていたと。しかし、今回によって御迷惑になるようなことは避けにやいかんというふうに考えておりました、そういう立場で対応をしておるところでございます、そういう点では、もちろんいろんな比率があると思いますけれども、しかし、今まで事業者の方と一緒にやってきたラインというのは私どもは間違っていないと思いますので、そこら辺についてはちゃんと話し合いをしながら、お互い困らないようにやっていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ぜひ、その3という数字にこだわることなく、いい形で嬉野市がしているとなれば、その制度で持続をしていっていただきたいというふうに私は要望しておきたいと思います。

その中で、ふるさと納税の健全な発展を目指す自治体連合、これは平戸等も入っておりますけれども、このことについては御存じでしたか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

これも新聞等で報道がありましたので、存じ上げておりました。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

答えるとき、私何回も聞きますけれども、存じ上げているということで、じゃ、次にどうしたのかということまでをお答えいただけませんかでしょうか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

この報道を目にいたしまして、中身ですね、どういう会なのか、これは私が調べる前に向こうの会のほうから加入促進の御案内をいただいております。県内の自治体のほうにも幾つか問い合わせをして、こういう通知が来ていないか、どうされますかというところで聞いております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

じゃ、今後についての考えは。——これは市長のほうがいいね。市長、このことについては、どうお考えになっていますか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答えを申し上げます。

私も組織としては既に承知をしておりますので、今、検討しているところでございますけれども、ふるさと納税の制度自体の、いわゆる存廃にかかわるようなことにならないように、制度自体を存続していこうということが本旨であるならば、当然私は入っていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ぜひ、そういう形で取り組んでいただきたいということを要望しておきたいと思えます。次に行きます。

次、産業関連の諸問題ということでありますけれども、茶業振興策、この「ディスカバージャパン」、市内の本屋さんでもとにかくとれば出る、とれば出るというふうな状況で、非常に今、市民の皆様方がお買い求めになっているというふうに思いますが、  
「いよいよブーム到来」「日本茶の時代がやってきた」と表紙にもあります。そして、女直虎が不動山にも来ております。

ここで、担当がどこかわかりませんが、「ディスカバージャパン」を見て、その後、どのようにお感じになったのか、お答えをいただきたいと思えます。

○議長（田口好秋君）

うれしの茶振興課長。

○うれしの茶振興課長（宮田誠吾君）

お答えいたします。

「ディスカバージャパン」につきましては、昨年度よりうれしの茶につきまして取り上げられて、数名の生産者の方が載っております。

今回、6月号にですけれども、いずれも行政の主導ではなくて、おのおのの取り組みが注



目されておりまして、うれしの茶生産者が独創的な取り組みを始めたことについては、大変頼もしく思っているところでございます。

今後も、嬉野市としましても産地行政として、必要に応じて可能な範囲で支援していきたいと考えております。また、生産者が新しい取り組みにチャレンジしやすい風土とか助成も取り組んでいければと考えているところでございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

市長は、この「ディスカバージャパン」を見てどうお感じになりましたか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

動き等については承知をしておりましたので、私どもにとっては非常にプラスの面で表現をしていただいているというふうに思っておりますので、こういううれしの茶に対する注目度というものが廃れないようにぜひ御協力をしていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

前からもあっておりましたけれども、今回、このように表紙であって、宇治等を差しおいて、頭からうれしの茶が載ってきている。非常にいい宣伝になったというふうに私は思っております。

恐らく直虎さんもあちこちで嬉野の宣伝をしてくれるんじゃないかなというふうに期待をしておりますけれども、結局、1世帯当たり緑茶の支出額というのが、1990年代、御存じかと思えますけど、7,000円台だったのが今現在4,000円台、半分の消費金額になってきている状況なんですよ。

そのように落ち込んでいる中で、うれしの茶を売り込んでいかなければならない。非常に難しい局面に入ってきているというふうに思うわけなんですよ。そこら辺のところについてはどのようにお考えになっていますか。

○議長（田口好秋君）

うれしの茶振興課長。

○うれしの茶振興課長（宮田誠吾君）

お答えいたします。

確かに今現在、国内におきますと、お茶の消費量が低迷、ずっと右肩下がりで下がっているということは考えております。これを今後、求めていくためには、今、嬉野市で取り組んでおりますお茶の輸出も検討していきながら、うれしの茶を海外へ売り込んでいき、今後、うれしの茶の生産量をふやしていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

お茶に門外漢の私が余り専門的なことを言うのは非常におかしいと思いますので、ある程度のところでやめたいと思いますけれども、うれしの茶は産地賞、もう5年——6年連続になりますか、とっておりますよね。そこで優良産地として全国に知れ渡っている。中でも今回、県品の中でここにおられます田中政司議員、優等賞をとっております。非常におめでたいことで、1等賞をとられなかったのは非常に残念でありますけれども、とりあえずよしとしておきたいと思います。

その中で、課長にお尋ねしたいのは、テロワール——説明しますね。これは、フランスでブドウが育つ土壌、地質、気候によって味わいの変化し、それがワインの個性につながるというふうなことで、テロワールということが今言われております。

そのテロワールについて、実は京都の宇治なんですけれども、利招園のお茶問屋さん、今まではお茶というのはブレンドするものだということであったわけなんですけれども、利招園が今やっているのは、単一の畑でとれた茶葉の販売を始めているんです。それが意味ではテロワールとつながるということで、テロワールと言われているんですけれども、この利招園については、一期一会ということが新たな価値になるということで、結局、単一茶畑、そこでそれがなくなったら終わりというふうなことの売り方を行っているわけなんです。

今後の考え方としては、一つの参考になるのではないかなという気はいたしますけれども、いかがですか。

○議長（田口好秋君）

うれしの茶振興課長。

○うれしの茶振興課長（宮田誠吾君）

すみません。私、テロワールという言葉初めて今ここで聞きましたので、（「テロじゃない、テロワール」と呼ぶ者あり）テロワール、すみません。

実際、京都のほうでそういうことをされておるということで、ちょっと私も把握しておりませんでしたので、今後また、そこらあたりを勉強しまして、検討したいと考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

宇治の利招園ということで、そのやり方をちょっと調べてみられたらいいかというふうに思います。これは日経に取り上げられておりましたので、ぜひ今後検討していただきたいと。できるかできないかは別にしても、一つの検討材料にはなるんじゃないかなという気はいたします。

その中で、東京渋谷の幻庵に行かれた方、手を挙げてくださいというのは非常に失礼かもしれませんが、行った方でどうお感じになったのか、その感想——市長はいかがですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

幻庵につきましては、新しい取り組みということで拝見してきたわけでございますけれども、一つは、当たり前のことですけれども、お茶を有料で、それも手軽に飲めるという文化がそこから発信できているんじゃないかなということで、非常に期待をしているところでございまして、幻庵の中でもございますけれども、幻庵で買った若い人たちがカップを持ってまちを歩いておられるという時代が来るんじゃないかなと思って、非常に期待をしているところでございます。

もう一つは、割とフリーに入れる店という形で店づくりをしておられましたので、そういう点では、お茶に対する——お茶というと、どうしても茶道とかなんかになりますけど、そうじゃなくて、新しい飲み方を提供していただいているんだなということで、そこで全て扱っているお茶がうれしの茶ということでございますので、非常に誇らしく思ったところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

幻庵、お茶1杯は幾らでしたか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

400円と承知しておりますけど。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

実は去る行った方、名前は申しませんが、400円、非常に高かったというふうなお話を聞いたんですよ。それはなかろうと。都会の人たちにすれば、コーヒーも日本茶も同じなんですね。コーヒーは700円、800円を出しても飲む。嬉野の人は、お茶はただという感覚にあるというふうに私は思っているんですよ。

結局、そのような感覚であるから、お茶の400円が非常に高かったというふうに受けとめられたのかなと思いますけれども、まさに私は都会に行けば、お茶もコーヒーもジュースも全部同じなんですね。そういう感覚の中で、今後、お茶というのが広がっていけばいいんじゃないかなというふうに思っております。

早瀬課長、幻庵、いかがでしたか。

○議長（田口好秋君）

建設・新幹線課長。

○建設・新幹線課長（早瀬宏範君）

お答えをいたします。

私、東京に出張したときに寄らせていただきましたけれども、雰囲気も非常によくて、そのときはちょっと暑かったので冷たいお茶をいただきましたけれども、非常に美味しく、先ほど市長は400円とおっしゃいましたけど、たしか私は450円だったと思っておりますけれども、高かったというような感覚はございませんでした。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

450円なんです。

そして、2番目に行きますけれども、先般、そのお茶の関係でIT関連を含む業者の方が約20人程度、嬉野にプロモートされて、茶業ツーリズムみたいな感じでお越しになっております。

そのことについて、誰か、市長でもいいし、担当課の方でもいいですけども、感想をお聞かせいただきたいと思っております。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

意見交換会というのですか、そういうことで参加をさせていただいたわけですが、

非常に職業もばらばらでございまして、若い人が非常に多かったわけですがけれども、そういう方々が嬉野に注目をしていただくというのは、非常に喜んでおるところでございます。

もう一つは、職業がいろいろ違いますので、違う職業によって嬉野の取り上げ方、また、いろんなアイデアを出しておられましたので、引き続き関係を持っていただければなというふうに期待をしたところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

課長はそれに行かれましたか。

○議長（田口好秋君）

うれしの茶振興課長。

○うれしの茶振興課長（宮田誠吾君）

お答えいたします。

いえ、在席しておりません。（「早瀬課長は行かれましたね」と呼ぶ者あり）

○議長（田口好秋君）

建設・新幹線課長。

○建設・新幹線課長（早瀬宏範君）

お答えをいたします。

私は、新幹線の駅前のほうで説明会等をさせていただきましたので、参加をいたしております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

旅館のキャッチフレーズじゃないですけども、何も無いのがぜいたく、そのIT関連を含めた方たちもお金は非常に裕福な方ばかりだというふうに聞いております。ただ、その中で、本当に自然というものが非常にすばらしかったと。嬉野は本当にすばらしいまちだというふうな印象を持って帰られたということなんですね。

ぜひ今後、そういう機会を大いにつくっていただきたいと思っておりますし、そこで、企画政策課長はIT関連の方とのセッションというか、それをとられましたか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

私も新幹線駅前に行かせていただいて、名刺交換等をさせていただきました。その中で、お一人とメールの交換をやらせていただいております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

その後、何らかのアクションはあっておりませんか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えいたします。

今のところ、その後の動きはございません。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

利用と言ったら非常に失礼になりますけれども、ぜひ今回来られたメンバーの方とのいろんなつながりを持って、そして、広がりを見せていったらいいんじゃないかなど。それがあ  
る意味では、企業誘致等々にも恐らくつながってくるというふうに私は思いますけれども、  
いかがですか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

そのとき、いろんな業種の方が来られました。まさに人と人とのつながり、ネットワーク、  
これが今から大事だと思っておりますので、その方たち、いろんなジャンルの方がいらっし  
やいますので、そのつながりを大事にしていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ぜひ、そういう形で御努力いただきたいと思います。

そこで、今、茶業ツーリズムということで申しましたけれども、これが日経の記事なんで

すが、京都府の和束町、ここは人口4,000人のまちなんですけれども、海外の観光客が茶畑を見に押し寄せてきているそうなんです。

ですから、このような状況ですので、本市も非常にきれいな茶畑があります。だから、そこら辺のところ、これは2番目に提案しておりますけれども、今後の旅行形態として茶業と観光というものをマッチングした形で行ったらいいんじゃないかなという気がいたしますけれども、課長、いかがですか。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（井上元昭君）

お答えをいたします。

茶業とのマッチングについては、重要なものだと思っております。今現在も体験、手もみとか、茶染め体験等を通して、嬉野に来ていただくようにPRしているところでございますが、今後、交流館の建設、開館等もございまして、またそれを契機に茶業とより一層タッグを組みながら進めてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ここの和束町、実はそこの子会社といいますか、町の子会社といいますか、一般社団法人和束町活性化センターというのが茶畑ツアーを行っているんですけれども、一遍調べてみてください。

ここは、今、外人向け参加費1万円なんです。それで行っても、とにかく右肩上がりでお客さんがふえているというふうなことで、ぜひ一遍、そこら辺のところをお調べになって、今後の参考にしていただきたいというふうに思います。

このようなことが、ある意味ではもうDMOにつながってくるというふうに私は思うんです。そのことがまさにDMOじゃないかなと、そういうふうに思いませんか。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（井上元昭君）

DMOにつきましては、多くの地域の方並びに事業所の方とかと連携を組みながら行うものなんですけれども、議員御発言のように、そういった取り組み自体がDMOにつながるものだと思っておりますので、その辺もしっかりとやっていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

DMOについては、次、予算にもありますので、さらっといきたいと思いますが、そういうふうに広げていくためには、やはりDMOの組織の中に農業関係者等々も入れる必要があるというふうに私は思うんですよ。

宮崎県小林市はまちづくり会社をつくって、その全部を巻き込んだ形でDMOを行っているんです。特に今申したように、茶業ツーリズムという形になれば、やっぱり農業との関係も出てくる。今のDMOの組織の中には、恐らく茶業関係者、農業関係者は入っていないというふうに私は思うんですよ。

ですから、そこら辺の今後のDMOの組織の問題についても再度御検討をいただきたい。それで、宮崎県の小林市を一遍調べてごらんになってください。小林市のまちづくり会社がありますけれども、小林市観光推進協議会というものが設立されております。そこを調べていただいて、今後のDMOのあり方について参考にされたらというふうに思います。

次に行きます。

次、立地適正化計画であります。

再度、お尋ねをいたしますけれども、議案質疑でもちょっとだけ言いましたが、この経緯、なぜこれを策定するようなことになったのか、それをお尋ねしたいと思います。

○議長（田口好秋君）

建設・新幹線課長。

○建設・新幹線課長（早瀬宏範君）

お答えをいたします。

立地適正化計画でございますけれども、人口減少、少子・高齢化、そういった中でそれぞれのまちが疲弊をしていくと。子どもたちが減って、お年寄りが出て、人がまちに出ていかないと、またそれが悪影響になって、まちが廃れていってしまう。そういったのを防ぎましょうということで、基本的にはコンパクトシティと多極的ネットワーク、そういったものを組み合わせることで将来存在できるまちをつくっていきましょうということで、その方策として位置づけられているものが立地適正化計画というふうに考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

一応、20年後でも安心して暮らせるまちづくりというふうなお答えをされましたですね。

ここで言われるのは、安心して暮らせるまち、それはどういう定義づけになるのか。そして、今、課長が言われたコンパクトシティとのつながり、それはどうリンクしてくるのか、



お考えをお聞きしたいと思えますけれども。

○議長（田口好秋君）

建設・新幹線課長。

○建設・新幹線課長（早瀬宏範君）

お答えをいたします。

まず、第1点目の安心したまちにつきましては、例えば、医療であったり、福祉であったり、また、買い物であったり、そういうものに、交通弱者と申しましょうか、そういう方々が不便をしないまち、そういった意味での安全なまちというふうに認識をいたしております。

それと、コンパクトシティとの関連になりますけれども、そういったものをある程度、一定の区域にまとめることによって、人々がそこに住みやすくなるようなまち、それがコンパクトシティだというふうに認識をいたしております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

コンパクトシティと、私も以前提案した経緯がありますけれども、それを今、反省しながら質問するわけなんですけれども、結局、今、コンパクトシティの先進地というのは全くないですよね。ほとんど成功例というのはあっていない。大半がある意味で破綻しているというか、そういう状況なんですね。

コンパクトシティのダイバーシティ、要するに田舎のほうの人たちを寄せ集めようとしても、絶対無理なわけなんです。一極集中にしようとしてもね。そして結局、国の狙いとしては、いろんな本を読みましたが、要するに固定資産税等々の増収というのが大きな狙いであるというふうなことがいろんなところに書かれておりました。その中から、このような一極集中的な立地適正化計画というものが出てきたというふうに書かれていたけれども、そこら辺についてはどうお考えですか。

○議長（田口好秋君）

建設・新幹線課長。

○建設・新幹線課長（早瀬宏範君）

お答えをいたします。

コンパクトシティ、今回の立地適正化計画については、今、議員御発言のような一極集中というような考え方ではなくて、ある程度、まち中には人口密度を上げましょう、農村部は農村部としての生活環境を守りましょう、そういった中で公共交通ネットワークを使って安全な、また、20年後も持続可能なまちをつくっていきましょうというのが私は立地適正化計画というふうに認識をいたしておりますので、一極集中というような計画書ではないという

ふうに認識をいたしております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

その中で、マスタープランがありますよね。これとの整合性というのはどうなってくるんですか。

○議長（田口好秋君）

建設・新幹線課長。

○建設・新幹線課長（早瀬宏範君）

お答えいたします。

都市計画マスタープランの、何と云えばいいですかね、もう少し実践型の計画書の位置づけになってくるものと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

要するに、基本的には都市計画マスタープランに沿った形で、これに準じた形で適正化計画を進めていくということで理解をしいんですか。

○議長（田口好秋君）

建設・新幹線課長。

○建設・新幹線課長（早瀬宏範君）

お答えいたします。

都市計画マスタープラン自体が、つくったのが若干早うございます。そういった意味では、都市計画マスタープランも随時見直しをしていくというふうに考えておりますので、今回の立地適正化計画とは、都市計画マスタープランの変更等も見ながら整合性はとっていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

結局、この都市計画マスタープラン、第2期分にしてもあと3年になっていますよね。そこで、やっぱり上位としてはマスタープランがあって立地適正化計画、それとも全然別な形という——どういうことなんですか、そこら辺のところはもう一度お聞かせいただきたい。

○議長（田口好秋君）

建設・新幹線課長。

○建設・新幹線課長（早瀬宏範君）

お答えいたします。

立地適正化計画自体は、都市計画マスタープラン、都市のあり方だけを模索するのではなく、ほかの公共交通機関等々とも、福祉とか、そういったものとも整合性をとっていく計画になってまいりますので、ある意味、都市計画マスタープランよりは上に位置づけるような計画書になってくるんじゃないのかなというふうに思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

上になってくるんですか、これが。となると、例えば、総合計画の下に都市計画マスタープラン、これが沿っていきますよね。総合計画を今回策定される中で、そこら辺の——じゃ、企画政策課長にお尋ねしますけれども、立地適正化計画というものについてはどのように捉えていかれますか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

あくまでも総合計画というのは行政のトップの計画、最上位計画と捉えておりますので、その下に各計画書が入ってくると思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

建設・新幹線課長。

○建設・新幹線課長（早瀬宏範君）

すみません。ちょっと私、立地適正化計画のほう为上に位置するという発言をいたしましたけれども、書物を今見ましたけれども、総合計画、都市計画マスタープラン、立地適正化計画の位置づけというふうに訂正をさせていただきたいと思います。申しわけございません。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

そうですね。いや、そうじゃないとおかしいんですよ。わかりました。

そしたら、もう次に行きます。

次に、教育問題であります。

これについては、前にありました一般質問の中で部活の問題、これについては、今、県としては外部指導員の定めはない、今年度中に検討されるというふうな答えがあっておりましたけれども、そういうことですかね。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

前回答えておりましたように検討をするということですので、それを受けて今後考えていきたいと思えます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

わかりました。

そういうことであれば、ここで質問することも限られてくるわけなんですけれども、じゃ、大体いつごろ県としては取り組む予定なんですか。

○議長（田口好秋君）

学校教育課長。

○学校教育課長（徳永 丞君）

お答え申し上げます。

結論から言えば、県もそこは何も示しておりません。ただ、今年度中にはしたいという話を聞いております。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ああ、したいですか、するんじゃないかと。ちょっともう一度。

○議長（田口好秋君）

学校教育課長。

○学校教育課長（徳永 丞君）

再度お答え申し上げます。

正式に県から通知等があったわけではございません。県のそういう立場の方がいる会議の中で、国からこういうものが示されたので、今すぐにはできないけど、ことしじゅうには何とかしたいと思っているという話をされたということを聞いております。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

わかりました。

その中で、資料を見ますと、市内の中学校の中で部活動の指導者が正式な顧問34人、副顧問が19人ということの中で、この34人のうち自分の専門とする競技種目等の指導を行っている人数が13人、38%、副顧問が19人のうち2人、10%ということで、この数字を見て、教育長はどうお考えになりますか。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

特段不思議には思いません。というのは、自分の経験上、私も振り返ってみますと、部活動顧問はしました。例えば、具体的に言いますと、大野原中学校ではソフトテニス初めての顧問でした。したがって、子どもたちとともにそれぞれ勉強しながらしてきた経緯もございますし、必ずしも名プレイヤーが名監督じゃないというふうなことを思っておりますので、そういった意味では、いわゆる教科において人事配置はするわけで、部活動が優先ではありませんので、そういったところでは部活動のあり方等についても、保護者にもPTA総会あたりでもお願いをして、理解をしていただくということで思っております。

ですから、そういうことからすれば、いらっしゃればなおかついいわけでございますけれども、いらっしゃらない場合はやむを得ないということをお願いしているという現状でございますので、そういう考えを持っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

簡単にお答えいただきますけれども、じゃ、今のところ、弊害はないということで理解を  
していいわけですね。（「はい」と呼ぶ者あり）はい、わかりました。

○議長（田口好秋君）

続けてどうぞ。

○17番（山口 要君）

次に、職員の勤務状況、ここに資料をもらっております。

そこで一つ、分析された中で、養護、事務、栄養では嬉野中の養護教諭の時間外勤務が突出したと。チームでの対応を考える必要があるというふうな答えをいただいております。

これについては、その現状と今後についての対応をコンパクトにお答えいただきたいと思います。

○議長（田口好秋君）

学校教育課長。

○学校教育課長（徳永 丞君）

この養護教諭のところは1人、1つの学校で非常に長かったと。ほかの学校に比べて、お一方、時間が突出していたケースがあったので、そこの養護教諭に仕事が偏ってしまっていたのではないかというふうに考えております。

したがって、ここは管理職、それから、教務主任とか級外の先生とか、または事務職員とか、そのあたりができるものは仕事をシェアして、お互いチームとしてやって、できるだけ一人の方に仕事の負担が偏らないようにしていただきたいということをお願いしているところでございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

校則の部分なんですけれども、資料をいただきますと、校則の制定時期については不明と。児童・生徒の指導上、必要が出てくれば、各学校において校則を適宜見直したりしているということでありますけれども、恐らく今、小・中学校の校則というのは、戦後すぐできたんじゃないかなというふうな気が私はしております。

これについては、時代に即した形で随時、各学校において見直しをされている、現状に沿ってというふうなことで確認をしてよろしいですか。

○17番（山口 要君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

校則については、十把まとめて校則という言い方をしていますけれども、それぞれの学校では生活の決まりでありますとか、約束でありますとか、そういう話が出てきております。そういうものをまとめて一つに校則と言っておまして、その事情、あるいは時代の流れ、あるいはいろんな新しい問題が出たときは、それぞれ話をしながら決めて約束事にしておりますし、そういう通達も過去出てきておりますので、そういう対応をしているのが現状でございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

次に、障害者差別解消法が施行された後の対応の中で、障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領を制定したということでお答えをいただいております。

この嬉野市における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領、これは全職員にこのことが周知をされておりますか。

○議長（田口好秋君）

福祉課長。

○福祉課長（染川健志君）

お答えをいたします。

対応要領については、昨年、作成をしております。作成をして、対応要領はこういうものだということで説明はいたしております。

対応要領ができての対応のやり方ですね、そのことについては、基本的には今、市民福祉部の職員に研修を実施いたしております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

要領をつくっただけでは何も意味ありませんので、ぜひここら辺を全職員に対して、このことに対する認識を持つように今後努力をしていただきたいというふうに思います。

総務部長、いかがですか。

○議長（田口好秋君）

総務企画部長。

○総務企画部長（辻 明弘君）

お答えいたします。

全職員に周知を図るように徹底したいと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

この要領が福祉のほうじゃなくして、総務のところに入ったんですよね。もうないないと思って見ておりましたら。そういうことであるというのが、全職員に対することも含めてじゃないかなという意味で、私は今そのことをお聞きしたんです。ぜひ、そのことを徹底していただきたいというふうに思います。

もとに戻りますけれども、福祉関連の中でひきこもり、それぞれ資料をいただいております。

このことに対する自由意見等の中で、継続した支援の必要性がある中で、相談しやすい体制づくりが必要だというふうな民生委員さん等々からの答えも出ております。

市長、そのことについて、今後、ひきこもりされた方、対応ということでの体制づくりについてどのようにお考えですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

子どもたちもですけれども、今、一般の方々のひきこもりということが言われるわけでございまして、数字的には嬉野のほうはそう多くはないというふうに思っておりますけれども、やはり地域の皆さん方、特に民生委員さんとか、また、コミュニティの皆さん方とも協力をし合いながら、まず地域との連携をとっていただくということで努力をしてまいりたいと思っておりますし、私どもとしても、そういう点ではお手伝いをしていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

いや、多くはないということでもないんですよ。644人、県下にいる中で、県内20市町ある中で嬉野市は35人なわけですから、ある一定水準、20分の1以上はいつているんですよ。だから、多くはないということはないと思います。これだけの方がおられるんですよ。

だから、今後についての対応をぜひしていただきたいというふうに思います。

次に、その手前の人材育成基本方針でありますけれども、これは何人もの方から質問が出ておりました。

私は、この人材の「材」を捉え方として、材料の「材」ではなくして財産の「財」と、「人財」の「財」という考え方を持っていただきたい。

そしてもう一つは、基本方針であります。これについては、ただ抽象的、一般的な記述にとどまっているというふうに私は読んで思いました。今後については、人材育成ということをする中で、職員、それぞれの本人さんの気づき、やる気というものをできるだけ後押しすることが必要だと。それについては、やっぱり上司、あるいは先輩職員の努力が必要であると。

冒頭のところで申しましたけれども、いろんな職場の情勢、雰囲気、それを醸成していくことが必要であると。物言える雰囲気の環境づくり、それに向けて努力をしていかなければいけないと思います。ぜひ、そういう形で御努力をお願いしておきます。

終わります。

○議長（田口好秋君）

これで山口要議員の一般質問を終わります。



以上で本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。皆さん大変お疲れさまでした。

**午前11時45分 散会**